

新年のごあいさつ



江別市議会議長
清水直幸



江別市長
三好昇

新年明けましておめでとうございます。
市民の皆様には、健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。
また、日ごろより市議会に對しまして、ご理解とご協力をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。
今日の社会情勢は、少子・高齢化の進展、情報通信技術の進歩、経済のグローバル化などにより大きく変化しており、地域社会を取り巻く環境はこれまでにも増して、厳しい状況にあります。一方で、これまでの地方分権改革の進展とともに、地方

新年あけましておめでとうございます。
市民の皆様には、輝かしい新年を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。
平素より、市政全般に深いご理解と温かいご支援、ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。
昨年は、市制施行60周年にあわせ平和都市を宣言し、市民の皆様とともに恒久平和を誓う「平和の碑」を市役所前庭に建立したほか、江別生まれ、江別育ちの右代啓祐選手がアジア大会十種競技で金メダルを獲得し、市民栄誉賞の第一号となるなど江別市にとりまして記憶に

自治体の裁量権が拡大し、議会および議員の果たす役割の重要性はいっそう高まってきております。
このような中、当市議会では、一昨年に制定した議会基本条例に基づき、市民への積極的な情報公開と市民への説明責任を果たすため、昨年9月の第3回定例会より本会議のインターネット中継を開始いたしました。ご自宅から本会議の様子が視聴できるようになりましたので、ぜひともご覧いただきたいと思っております。
また、昨年11月には「市民と議会の集い」と題した議会報告

残る年となりました。
今年は、昨年4月にスタートした新総合計画「えべつ未来づくりビジョン」の「えべつ未来戦略」2年目として、市民の皆様と協働の基本理念のもと、引き続き、将来を創る産業の活性化や次世代に向けた住みよいまちづくり、えべつの魅力発信に努めて参ります。
中でも、人口減少社会に対応する上で子育て・教育の充実が重要であるため、利用者が10万人を超えた子育て広場「ぼこあぽこ」では、子育てや就労支援の情報提供、市内企業とタイアップした企画を展開するほか、

会を開催しました。報告会では、これまでの議会改革への取り組みや議論などを説明させていただき、皆様から貴重なご意見をいただきました。市民の皆様からは行政だけではなく、選挙で選ばれ、市政の一翼を担う議会自身にも市政に対する創意や工夫を求める意見などが出され、議会に対する期待や責任がますます大きくなっていると感じたところです。
当市議会としても、今まで以上に市民の皆様と行政が協働して市政を運営することが不可欠であると改めて認識したところであり、また、それと同時に市

教育では小学校1年生から英語教育を導入するなど、学習環境の整備に取り組んで参ります。
誰もが健康で安心して暮らすために、健康寿命を延ばすことが必要であり、自治会との連携による健診体制および健康づくり事業の強化、さらには、市立病院や地域医療体制の充実を図っていききたいと考えております。そのほか、顔づくり事業では、8丁目通街路事業が本格化するほか、野幌駅周辺での商業集積に加えて、ビジネス街としての街並み整備も進み、交流人口の増加も期待されます。
また、大学・研究機関などと

民の皆様からの市議会に対する期待や要望などに積極的に応えしていくためにも、議員が一丸となり議会の更なる活性化に向け、より一層まい進していかねければならないと決意を新たにいたしましたところ です。
今年「未」年、世界の国々が平和で穏やかな良い一年に、大きな災害などが起こらない安全な一年になることを祈念して

連携した食の高付加価値化やRTNパークで操業する食品工場に続く新たな企業誘致を推進し、雇用の創出につなげるなど、まちの活力を維持するための基本となる市内経済の活性化を図っていかねばなりません。
今年も、江別市の持つ特性や優位性を活かし、市民、自治会、市民活動団体、大学、企業などと連携し、「協働のまちづくり」を進めて参りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。
新たな年が市民の皆様にとって希望に満ちた素晴らしい一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

野幌駅前北口広場が完成

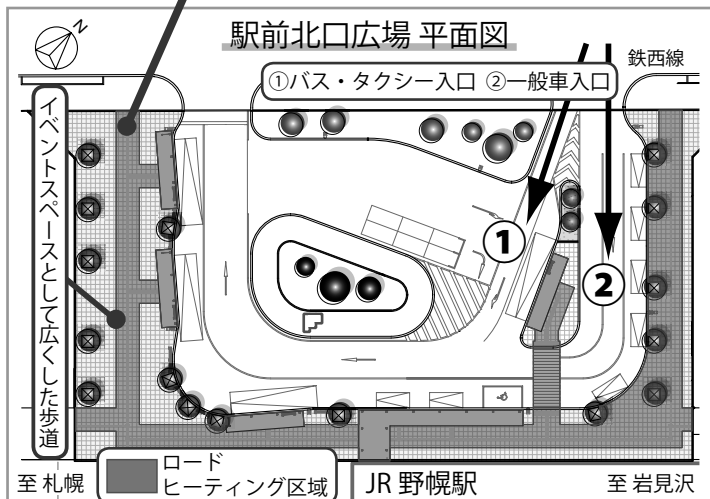
平成24年度より整備を進めてきた野幌駅前北口広場が12月に完成しました。北口広場はまちの顔となるため、広場内には江別市の特徴を活かした登り窯とツリーのシンボルを配置しています。また、広場内の札幌側の歩道はイベントスペースとして、歩道の幅を広くしています。

江別の顔づくり事業

▼ロードヒーティングで融雪された北口広場の歩道



▼完成した北口広場の全景



バス・タクシー入口（左図①）と一般車入口（左図②）を分離することで、交通の円滑化を図り、安全性を確保しています。また、歩道の一部にロードヒーティングを設置し、冬期間の歩行者の快適性と安全性が向上しました。ロードヒーティングは、再生可能エネルギーである地中熱を利用したヒートポンプ式です。省エネルギー性に優れ、環境に優しい仕組みとなっており、道内の駅前広場では、初めての取り組みです。

【詳細】都心整備課 ☎ 381-1082

江別グリーンエコナジー発電所が完成



環境事務所の敷地内（工業町14番地の2、3）で、グリーンエコナジー（株）が建設を進めていた太陽光発電所「江別グリーンエコナジー発電所」が完成し、平成26年12月14日の竣工式を経て、同月18日から営業運転を開始しました。

市有地での民間事業者による太陽光発電所の建設は、平成25年2月に稼働した「江別ノーザンフロンティア発電所」に続き、2カ所目です。発電の規模は約878キロワットで、太陽光パネルは約5千枚です。積雪に備え、地上から1.5mの高さに設置し、傾斜を40度にしてパネルへの積雪を防いでいます。

年間発電量は一般家庭約275世帯分の電気使用量に相当する約91万キロワット時を想定し、発電した電力は再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT）で、全量を北海道電力に売電します。

発電量を灯油に換算すると、年間の灯油削減量は490ℓの家庭用タンク約500台分に相当します。また、年間のCO₂排出量削減効果は約620トン。これは約4万4千本の杉の木が1年間に吸収する量に相当します。

市内2つの太陽光発電施設の年間発電量を合わせると、一般家庭約835世帯分の電気使用量に相当する約276キロワットとなります。市では、環境にやさしい低炭素型のまちづくりに向け、今後も太陽光やバイオマスなど、再生可能エネルギーの導入を推進していきます。



竣工式の様子。市長や市議会議員などが市の代表として招かれ、テープカットを行いました。

年間発電量は一般家庭約275世帯分の電気使用量に相当する約91万キロワット時を想定し、発電した電力は再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT）で、全量を北海道電力に売電します。

道の太陽光発電導入状況

北海道では、平成24年からの固定価格買取制度の開始以降、大規模太陽光発電所を中心に導入が進んでいます。

